

〈保護者向け〉
〈教育関係者向け〉パンフレット

自立のための道しるべ

学校へ行けなくなったお子さんの対応のために



小松島市・勝浦町・上勝町教育委員会
はなみずき学級

はなみずき学級

① はなみずき学級とは？

- ★自分をみつめ、本来の自分を取り戻すため、お子さんを支援する小さな学級です。
 - 自分のペースで、自分の好きな遊びや勉強などの活動ができます。
 - 通級時間は、自由です。
 - 通級した日は、在籍学校で出席扱いになります。

② どうすれば入級できるの？

- ★見学したい時は、電話でお問い合わせください。
 - はなみずき学級 TEL:0885-32-3843
 - 小松島市教育研究所 TEL:0885-32-3811
- ★入級は学校の担任の先生と相談の上、学校を通してお申し込みください。

③ 保護者や先生方へ向けての活動はあるの？

- ★保護者交流会(保護者、指導員、医師等を交えて)
- ★保護者個別相談会
- ★適応指導担当者・担任教員等研修会

場所

小松島市勤労青少年ホーム4F

小松島市南小松島町1番16号
■JR四国牟岐線南小松島駅徒歩5分
■バス停小松島市役所前すぐ

事務局

小松島市教育委員会

小松島市横須町2番14号
TEL:0885-32-3811



★海が見える学級で風にふれてみませんか？

不登校とは

何らかの心理的・情緒的・身体的、あるいは社会的要因や背景により、児童生徒が登校しない、あるいは登校したくてもできない状況にあることです。

不登校のタイプ

- 1.「学校生活上の影響」の型… いやがらせをする子どもの存在や教師との人間関係等、学校生活上の影響から登校しない（できない）型。
- 2.「あそび・非行」型……………遊ぶためや、非行グループに入って登校しない型。
- 3.「無気力」型……………無気力で何となく登校しない型。登校しないことへの罪悪感が少なく、迎えにいたり強く催促すると登校するが、長続きしない型。
- 4.「不安など情緒的混乱」の型… 登校の意志はあるが身体の不調を訴えて登校できない等、不安を中心とした情緒的混乱によって登校しない型。
- 5.「意図的な拒否」の型……………学校に行く意義を認めず、自分の好きな方向を選んで登校しない型。
- 6.「複 合」型……………不登校状態が継続している理由が複合していて、いずれが主であるかを決めがたい型。
- 7.そ の 他……………上記のいずれにも該当しない型。

このように分類することは、子どもの不登校を理解し子どもを支援するための指標にすぎません。分類にこだわるよりも、一人ひとりの子どもたちが何を考え、何を訴えているのかを考えることが重要です。

不登校のサイン

腹痛・頭痛・嘔吐・倦怠感（体がだるい）などの症状を朝訴え、これらの症状のために登校ができないことが多くなります。しかし、昼頃になると症状がなくなったり軽くなったりすることが多くみられます。

不登校のサインをみつけたら

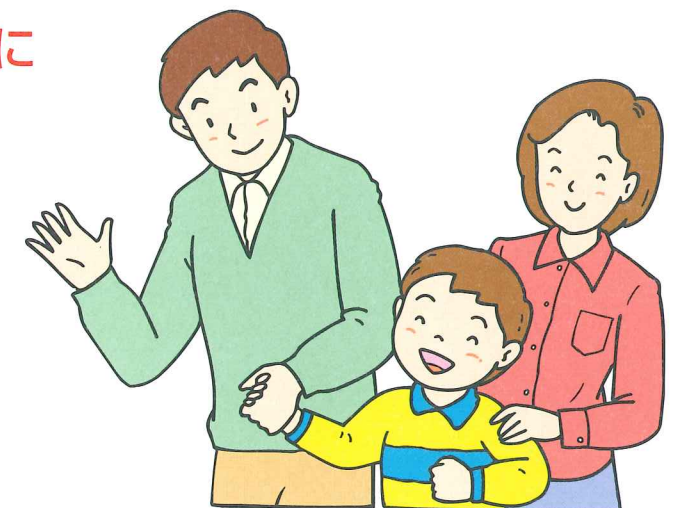
●現在の心理状態（不安・恐怖・心配等）を軽減させてあげましょう。

子どもの「疲れている」「不安である」状態に共感し、今のところはっきりしない原因があると理解し、「子どもには今少し休養が必要なのだ」と感じる事が大切です。「なまけるな」「がんばれ」という言葉や態度は、子どもの不安を増強させるおそれがあります。

●家庭を理解ある温かい場所とし、子どもの成長を見守れる場所としましょう。

子どもが不安感を訴えた時はそれを拒否し励ますのではなく、不安を受け止めることが大切です。不安の感情は、これを受け止められることで解消します。保護者は特に、混乱のあまりこのような理解や受容が欠けやすいので注意しましょう。

家庭だけで悩まず、専門機関に相談したり、症状がひどいときには医師に相談しましょう。



不登校の要因や背景

家庭で	学校で	社会で
<ul style="list-style-type: none"> ●子どもへの期待の増大 ●家庭内の不和 ●生活環境の急激な変化 ●団らん時間の減少 ●教育力の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ●人間関係のつまずき ●集団活動からの疎外感 ●様々な自信喪失 ●学校生活での不適応 ●学習のつまずき 	<ul style="list-style-type: none"> ●自由時間の減少 ●個別遊びの増加 ●地域連帯の希薄化 ●家族形態の変化 ●人間関係の希薄化

不登校の原因は、社会・家庭・学校・本人の問題などの多様な要因からなり、要因を画一的に固定してしまわない方がよく、大人の思いこみが子どもへの援助を誤った方向へ導くことがあります。

大切なのは

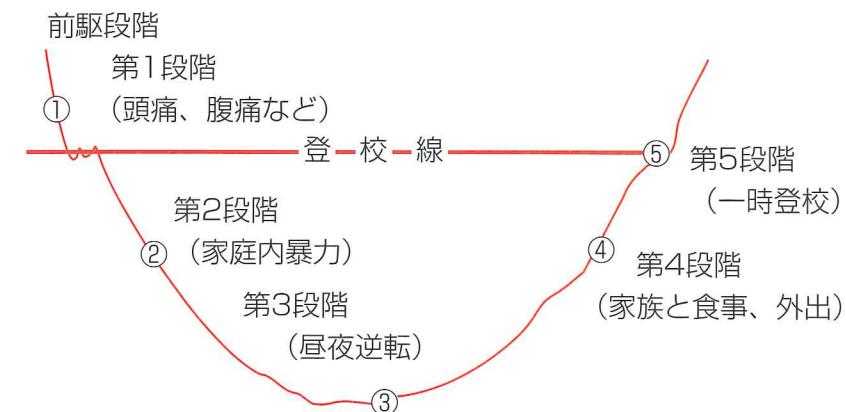
- 不登校で表現している子どもの心を理解することです。
- 子どもの自立心を養い、自我を支えてやることで、対人関係に自信を持たせることです。
- 落ち着いて温かく見守りながら、心と心のふれあう人間関係を築いていくことです。
- 学校、地域、家庭が連携して子どもを支援していくことです。

**心と心のふれあう人間関係が、
こどもの心を変えていきます。**

不登校の各段階と回復までの道のり

〈注意〉

児童生徒の状況等によって、あらわれ方や進行の程度はそれぞれ異なる場合があるので、このモデルに合わせて断定的な見方をしないように注意する必要があります。



第1段階

身体的不調を訴える

- 遅刻が多くなる。
- 保健室へ頻繁に行くようになる。
- 登校時間になると頭痛・腹痛などを訴え欠席する。
- 医学的には異常はなく、午後になると気分が良くなる。

第2段階

攻撃的行動をとる

- 心理的に落ち着かず、イライラしている。
- 家族への暴力行為、器物破損などの荒れが目立ってくる。

第3段階

自分の部屋に閉じこもる

- 昼夜逆転、自分の部屋に閉じこもり、口もきかなくなる。
- 登校刺激を与えると、情緒的に不安定な状態になる。
- 甘えと反抗が同時に出る。

第4段階

室外へ出始める

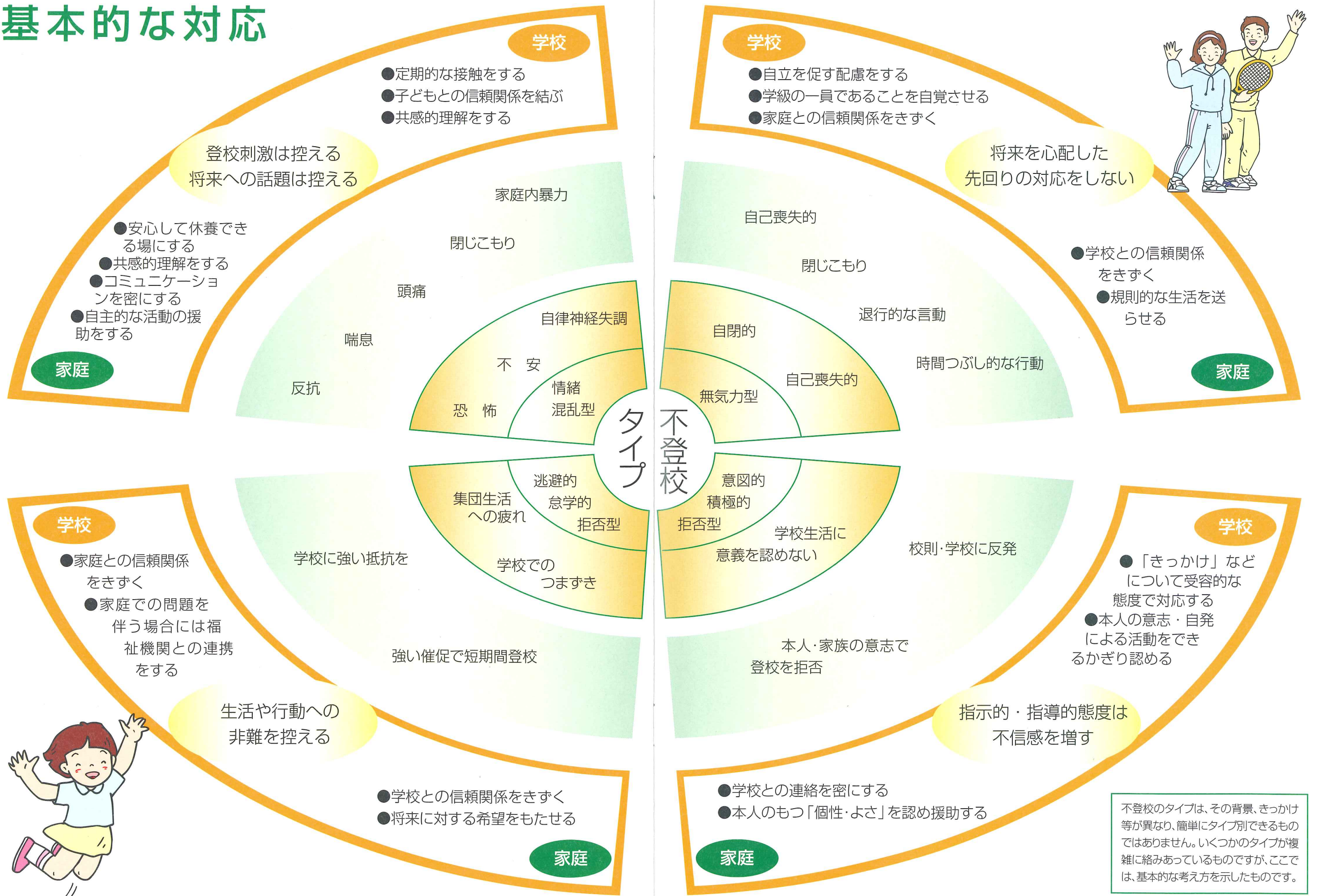
- 家族と一緒に食事、会話、手伝いを始める。
- 友達に電話したり、会ったりする。

第5段階

登校を始めるが十分対応できない

- 保健室登校、短い時間しか学校にいられない。
- 回復半ばと考えて対応しないと、再発することが多く、不登校のまま学齢期を過ぎることも多い。

基本的な対応



不登校のタイプは、その背景、きっかけ等が異なり、簡単にタイプ別できるものではありません。いくつかのタイプが複雑に絡みあっているものですが、ここでは、基本的な考え方を示したものです。